

平成 28 年 7 月 22 日

【照会先】

厚生労働省健康局結核感染症課

課長補佐 野田 博之(内線 2373)

課長補佐 大塚 和子(内線 2376)

(代表番号) 03(5253)1111

報道関係者 各位

デング出血熱患者（輸入症例）死亡例の発生について

日本国内で、フィリピンへの滞在歴がある女性 1 名が発疹等の症状を示し、7 月 16 日に医療機関を受診し、19 日にデング出血熱と確認されました。20 日に医療機関から自治体に届け出があり、新潟県内の地方衛生研究所における検査の結果、デングウイルス 3 型の陽性が確定しました。また、患者の容体は重篤で、21 日にお亡くなりになりました。

直近のデング熱症例の死亡例は 2005 年に 1 例確認されています。

この患者に関する情報は、以下のとおりです。

- 1 年代：30 歳代
- 2 性別：女性
- 3 滞在国：フィリピン
- 4 症状：発疹、腹痛、嘔吐、下痢、下血
- 5 現地での蚊の刺咬歴しこうれき：不明
- 6 居住都道府県：新潟県

(参考) 新潟県プレスリリース

国民の皆様へのメッセージ

デング熱は、蚊に刺されることによって感染する疾患です。

デング熱は急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、嘔気・嘔吐などの症状が見られます。通常、発症後 2～7 日で解熱し、発疹は解熱時期に出現します。デング熱患者の一部は重症化してデング出血熱やデングショック症候群を発症することがあり、早期に適切な治療が行われないと死に至ることがあります。重症化のリスク因子として、妊婦、乳幼児、高齢者、糖尿病、腎不全などが指摘されています。

デング熱の発生地域へ渡航する場合は、長袖・長ズボンを着用したり、蚊の忌避剤きひざい（虫よけスプレー等）を使用したりして、蚊に刺されないように注意してください。

また、海外からの帰国者は、体調に異常がある場合は、到着した空港等の検疫ブースで検疫官に申し出てください。帰国後に症状が認められた場合は、医療機関を受診し、海外への渡航歴を教えてください。

(参考) デング熱の発生状況

	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年 7 月 10 日現在
輸入症例	249	179	292	173
国内感染例	0	162	0	0

(死亡例 0)